

平成 28 年度第 7 回霞ヶ浦自然観察会結果報告

「巴川源流域の植物を学ぶ ～キジョラン、ツルギキョウ」を実施しました。

開催日時：平成 28 年 9 月 24 日（土）午前 9 時 00 分から午後 3 時 30 分まで

開催場所：笠間市岩間 愛宕山

参加者：33 名

第 7 回の霞ヶ浦自然観察会は、霞ヶ浦を代表する流入河川の 1 つである巴川源流域の植物を観察しました。今年度の霞ヶ浦自然観察会【植物編】では、春の里山林、初夏の湖岸湿原に続いて、今回山地の森林地帯の植物を観察し、11 月に行う晩秋の湖岸植物の観察まで、年間を通して、霞ヶ浦流域内にある多様な生態系を観察しています。

講師は植物の観察会ではおなじみの福田良市先生。今回も楽しく、かつ分かりやすく植物について説明して頂きました。

巴川の源流は笠間市岩間の愛宕山にあり、自然植生ではスダジイなど常緑広葉樹が優占する林になりますが、植林されたヒノキの林なども見られます。これらの樹木による森林の林床は薄暗く、光の少ない環境でも生育できる植物が多く見られます。

また今回の観察会はテーマ植物として、旅するチョウとして有名なアサギマダラの幼虫が食草にするガガイモ科のキジョランと茨城県レッドデータで絶滅危惧Ⅱ類に分類されるツルギキョウを選びました。

当日は雨も心配されましたが、観察会を行っている間は雨に降られることもなく無事に予定通り実施することができました。

午前中はあたご天狗の森の下側の斜面を観察していきました。森のなかに入るとひんやりと湿った空気に包まれました。しばらく観察していくうちにツルギキョウを見つけました。ツルギキョウは初めて見る参加者も多く、また普通はこの時期には見られない花もまだ残っていて、参加者のみなさんも特に熱心に観察していました。もう一つのテーマ植物であるキジョランは、まだ草丈の小さいものから、大木に絡まり大きく生長したものまで、数多く観察することができました。

昼食休憩後は愛宕山神社周辺で観察を行いました。植物はもちろんですが、愛宕神社周辺には中生代ジュラ紀に海底で堆積した砂や泥の地層が、のちにマグマの熱を受けて硬くなったホルンフェルスという岩石も見られました。筑波山地域ジオパークが日本ジオパークに認定されたばかりということで、多くの見学者の姿も見かけました。また展望が開けたところでは、眼下に霞ヶ浦や涸沼を見渡すことができました。

今回驚かされたのは参加者のみなさんの植物に対する知識の豊富さ。植物観察の奥の深さを実感しました。

福田先生には 11 月に実施する第 9 回霞ヶ浦自然観察会（晩秋の湖岸植物を観察しよう）の講師をお願いすることになっています。

参加者のみなさん、福田先生、パートナーのみなさん、大変ありがとうございました。

環境活動推進課 福井正人

観察会の様子と観察した植物の一部を御紹介します。



あたご天狗の森 案内図

講師の福田先生です。



ツルギキョウの花



ツルギキョウ



キジョラン



大木に絡みついたキジョラン



吾国山が見えました。

観察した植物はおよそ 150 種類でした。